

目次

- ▶ 中央医療センターがこれから担っていくべきこと ……表紙
- ▶ 特集 間もなくスタート！ハイブリッド手術室 ……2・3ページ
- ▶ シリーズ ドクターにきましたっ！一人ひとりに最適で安全な麻酔を目指して…4ページ
- ▶ 看護部のページ 看護外来のご紹介 ……5ページ
- ▶ 病院紹介 全国初！ノロウイルス対策カートを開発・導入…6ページ
- ▶ コンチェルトのページ ……7ページ
- ▶ 県立ほすびたるニュース ……8ページ



中央医療センターがこれから担っていくべきこと

中央医療センター長 道傳 研司

例年がない大雪に見舞われたこの冬、県内の主な医療機関がどこもほぼ満床状態のため、救急車の受入れを断るといった事態が頻回に起こりました。当院では、近隣の医療機関の詳しい受入状況がわからないまま、毎日、救急車を受け入れ続けました。入院中の患者さんに早期退院や院内での病棟移動をお願いし、さらには翌日入院予定の患者さんのベッドも使って、救急車の受入れを続けました。後日、他の医療機関でも同様であったことを知りました。このような前代未聞の事態となった原因として、災害救助法適用となる程の大雪の影響があったことは間違いありません。しかし、近年の各医療機関の実稼働病床数の減少も影響している可能性はないでしょうか。今後、急性期病床がさらに減少し、また、体調が変化しやすい高齢の方がいっそう増加すると、同じような事態が頻発するのではないかと危惧するのは私だけでしょうか。



今年は診療報酬・介護報酬同時改定の年です。入院医療では入院基本料の再編が行われ、退院支援も入退院支援として入院前からの様々な支援の取組みが評価されようとしています。医療政策は急激な高齢化・人口減少によって転換を余儀なくされ、地域包括ケアシステムの構築がその目標となりました。しかし、我々医療機関も、そして、患者さんもこの急激な変化に十分に対応できていません。診療報酬の定期的な改定は各医療機関の取組みや患者さんの受療行動を地域包括ケアシステムの構築に向けさせようとする医療政策の一環と言えます。医療情勢が急激に変化する中、医療機関に働く私たちは自分たちの意識や行動を常に変え続ける必要があります。しかし、一医療機関だけで改革していくことは困難です。患者さん、そして、関連する多くの医療機関や介護施設の方々と共に地域全体で協力していかないと、改革の継続は不可能です。

今回、当院はDPC特定病院群となりました。構築されていく地域包括ケアシステムの中であって、当中央医療センターは必要な時に必要な医療を提供して県民の皆様すみやかに回復して頂き、そして、すみやかに地域社会に帰って頂く役割を担い続けたいと考えています。そのためには、この冬に経験したような事態も慌てることなく乗り切れるような体制を、県民のみならず、そして、関連する多くの医療機関や介護施設の方々と共に完成させていく必要があります。

どうぞ、今後ともご支援の程、よろしくお願い致します。

福井県立病院理念・基本方針

理念

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

基本方針

1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者様本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実を図ります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報の適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。

「コンパス」には、

「円を描く道具」「方角を示す磁石」の2つの意味があります。

この広報誌が皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、今後の皆様の道しるべとなるようお願いを込めて名付けられました。

平成27年度からは地域医療連携通信「コンチェルト」と統合した内容でお届けしています。

間もなくスタート!

脳心臓血管センター心臓血管外科医長

西田 聡

この3月に待望のハイブリッド手術室が完成しました。ハイブリッド手術室とは手術室に高性能な放射線透視装置を設置したもので、通常の手術とカテーテル治療を統合して行うことができるようになりました。

この「ハイブリッド (hybrid)」の意味はみなさんご存知でしょうか。語源はラテン語の「hybrida」で、「豚と猪から生まれた子孫 (=イノブタ)」という意味だそうです。そのため、hybrid の本来の意味は「動植物の交配種・雑種」になるようです。最近すっかり身近になったハイブリッドカーのイメージからすると何だか違和感がありますね。ガソリンエンジンと電気モーターを併用するハイブリッドカーは今や主力車種で、環境性能の高さを謳ったハイテクの象徴です。ハイブリッドといえばとても技術の進歩した感じがします。

手術室と血管造影室を統合したハイブリッド手術室は真にハイテクと言えるのではないのでしょうか。最良の治療を行うため最先端の技術を持って設計された手術室です。今回、当院ではフィリップス社製の天井吊り下げ型放射線透視装置 Azurion 7 20 シリーズを採用しました。タイミング良くちょうどフルモデルチェンジされたところで、ハイブリッド手術室での採用は本邦で第一号になりました。今まで以上に高度な透視性能を備えておりますが、最も進化した点は完全マルチタスク処理を実現したことにあります。手術室と操作室の処理が独立してい



本年4月から稼動するハイブリッド手術室

【設備】

血管撮影装置：Azurion 7 20 シリーズ (フィリップス社製) 手術台：マグナス手術台 埋込型 1180 (マッケ社製)
手術室の広さ：75㎡ (操作室 19㎡は除く) 清浄度：クラス 1,000 (クリーンルームと同等)

ハイブリッド手術室

るため、それぞれのスタッフは互いに邪魔することなく作業に取り組むことができます。手術室でX線が照射されている間でも操作室では患者の以前の画像レビュー、次の検査の準備、別の患者のレポート作成などを行うことができます。手術時間の短縮といった点でも治療のクオリティーが上がるのは間違いありません。

このハイブリッド手術室を使用すれば、これまでの治療はより高精度に、これまでできなかった治療は実現可能になります。心臓血管外科の領域で言えば、大動脈瘤のステントグラフト治療におけるステントグラフトの位置合わせに難渋することはなくなりそうです。大動脈弓分枝にあらかじめバイパスを作成するような場合でも、手術とカテーテル治療が途切れることなくスムーズに進行していくことが考えられます。新しくできる治療としては経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）があげられます。TAVIを行うにはハイブリッド手術室の完備が必須となっています。

もっと身近なところでは、大腿動脈の石灰化の強い患者さんに腸骨動脈の経皮的血管形成術を行いたい場合に効果を発揮できそうです。大腿動脈を露出しカテーテル治療を行った後、大腿動脈の血栓内膜切除を行う方法です。また、人工血管内シャントの閉塞では外科的に血栓除去を行った直後に狭窄部をカテーテルで拡張



操作室

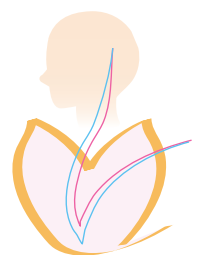
張することができます。手術室とカテーテル室を行ったり来たりすることがなくなりますね。心臓血管外科領域だけでもいろいろな活用法が考えられます。

ご存知のように、福井県立病院は脳心臓血管だけでなく全身の臓器に対応する総合病院です。全身の疾患に対してこのハイブリッド手術室を活用した治療が行われていくことになるとと思います。治療のクオリティーが向上していくことは間違いありません。どうぞご期待ください！

今後も脳心臓血管センターを中心に日夜診療に励んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

ハイブリッド手術室でできること

- ・大動脈瘤に対するステントグラフト治療
- ・経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）
- ・閉塞性動脈硬化症に対する外科的血行再建術と経皮的血管形成術の同時施行
- ・小切開僧帽弁手術と経皮的冠動脈形成術の同時施行
- ・臓器虚血を伴った急性大動脈解離の手術
（上腸間膜動脈ステント留置と弓部大動脈置換術など）
- ・巨大脳動脈瘤に対する頸部縮小と血管内塞栓術の同時施行
- ・巨大脳動脈瘤に対するバイパス手術と血管内塞栓術の同時施行
- ・脳腫瘍や脳動静脈奇形に対する栄養動脈の塞栓と摘出術の同時施行 など



シリーズ
ドクターに
ききましたっ!

一人ひとりに最適で安全な麻酔を目指して ～術後鎮痛対策を強化しました～

麻酔科の仕事について教えてください。

今回教えていただくのは 麻酔科 我喜屋 徹ドクターです。



手術の際の麻酔には大きく分けて全身麻酔と局所麻酔があります。当院では麻酔科医が主に全身麻酔を担当しています。

全身麻酔では、静脈麻酔薬や吸入麻酔薬を使用して患者さんの意識を失くし、鎮痛薬を使用して痛みをとります。また、筋肉を弛緩させる薬を使って体動を防ぎます。

当院では、全身麻酔に硬膜外麻酔や神経ブロックなどの局所麻酔を積極的に併用し、また静脈から持続的に鎮痛薬を注入するIV-PCAなどを使って術後の痛みの軽減をはかっています。

私たち麻酔科医は術中は常に患者さんのそばにいて血圧や脈拍、心電図などを監視しています。さまざまな麻酔の薬を用いて麻酔の深さを調節し、必要な時には降圧薬や昇圧薬、心作動薬などを用いて患者さんの安全を守ります。

当院では、生まれたばかりのお子様やさまざまな合併症を持った方などの手術も行っています。

いつも安全な手術が行えるように、一人ひとりの患者さんに最適な方法を考えて麻酔を行っています。



朝のカンファレンス



心臓血管外科手術の様子



神経ブロック



症例検討会

看護部の ページ

看護外来のご紹介

～患者さんの療養生活を私たちがサポートします～

がん看護外来

がんと診断された患者さんやご家族が病状を理解することをお手伝いし、治療や療養に関わる意思決定を支援します



助産師外来

妊婦さんにご家族に妊娠期の健康診査、保健指導を行います

産後ケア外来

産後のお母さんにご家族に、退院後も継続して相談を受け、育児を支援します

スキンケア外来

傷や床ずれの処置、人工肛門、失禁の対処方法、スキントラブルの予防に関する相談をお受けします



慢性腎臓病相談外来

慢性腎臓病保存期の患者さんに生活調整を指導し、進行を緩やかにし、透析に至る期間延長を目指します

呼吸ケア外来

慢性呼吸器疾患の患者さんに治療や生活に必要な知識や技術を提供します



糖尿病療養相談外来

糖尿病の患者さんにご家族に、治療や生活に必要な知識や技術（インスリン、血糖測定、フットケア）を提供します

摂食・嚥下看護外来

摂食・嚥下障害のある患者さんの治療や生活に必要な知識技術を提供し、嚥下評価を実施します

人工呼吸器相談外来

ご自宅で人工呼吸器を使用している患者さんのケアや機械の管理について知識技術を提供し、困りごとのご相談をお受けします



看護外来実施日・場所一覧

外来名称	実施日	場所
がん看護外来	毎日	がん医療センター
スキンケア外来	月・水・金	2階 8ブロック がん医療センター
助産師外来	火（午後）	1階 5ブロック
産後ケア外来	木（午前）	6階 北病棟 626号室
摂食・嚥下看護外来	第2火	1階 2ブロック
糖尿病療養相談外来	毎日 水は午前 金は午後	2階 6ブロック
慢性腎臓病相談外来	第1, 2月 第3水 第4木	1階 2ブロック
呼吸ケア外来	第1火 第2, 3木 第4月	1階 2ブロック
人工呼吸器相談外来	第4水	1階 2ブロック

受診をご希望の方は、かかりつけの主治医に受診希望を伝えて、予約をして下さい。

【問い合わせ先】福井県立病院 看護部 TEL(0776)54-5151 (内線:5178, 5220)

病院紹介

全国初!!

ノロウイルスに対応した給食カートを開発・導入

栄養管理室

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、一年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。非常に感染力が強く、手の指や食品を介して体内に入ると小腸粘膜で増殖し、嘔吐や激しい下痢、腹痛などを起こします。近年では食品取扱者や調理従事者などを介してウイルスに汚染された食品を原因とする食中毒が増加傾向にあります。

当院では食中毒菌やノロウイルスが死滅するよう、調理段階においては、食材の中心部まで85℃以上で1分以上加熱するなど、安全を期しています。

しかし、現在、大規模施設で使われている給食配膳用の温冷カートや再加熱カートでは、料理を85℃以上で再加熱あるいは保温することができないため、調理後の盛り付け作業の過程での衛生管理に課題がありました。

そこで今回、カートの中にセットした主菜・副菜・汁物を“85℃以上かつ90秒間以上”再加熱ができるシステムを給食カート・メーカー（株式会社エージーピー）と共同で開発しました（共同特許出願）。

IH（電磁誘導加熱）カートの機能や食器を工夫し、一般食や治療食、2分の1量の食事、とろみをつけた嚥下食など複数種類の食事を同じカートで加熱できます。また、再加熱後の食材は変色や焦げもなく、加熱終了20分後には料理の中心温度は60℃近くになり、患者さんには最適な喫食温度で美味しく提供することができます。当カートは、平成29年10月下旬から約20台を導入運用しており、2年以内に全病棟に導入を予定しています。



(^o^)/
あったかくて、
おいしいよ。





地域医療連携医のご紹介

井上内科外科クリニック



院長 井上 剛志 先生

住 所：福井市高木中央2丁目2515
 T E L：0776(63)5039
 診 療 科：内科、外科、消化器内科
 診 療 時 間：8:30~12:30/14:30~18:30
 休 診 日：水・土曜午後、日曜、祝日
 U R L：<https://inouenaikageka-clinic.jp/>



身近で気軽に受診できるクリニック

当院は平成29年10月に福井市高木中央に開業致しました。専門は消化器科ですが高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病を始めとした一般的な内科系疾患、外傷などの外科系疾患に対する診察・治療を行っています。

また胃癌や大腸癌など悪性疾患の早期発見に貢献できるよう、内視鏡検査にも積極的に取り組んでいます。消化器癌は早期発見、早期治療が何よりも重要となりますが、残念ながら非常に進行した状態で発見されることも少なくありません。当院では経鼻内視鏡の導入など、できるだけ患者様への負担を軽減できるように努めてまいります。診察の結果、より専門的な診断・治療が必要な方、重症で入院治療が必要な方は福井県立病院などの各提携病院へご紹介させていただきます。

身近な地域のかかりつけ医として皆様から信頼され健康に貢献できるクリニックを目指してまいりますので、どんなことでもお気軽にご相談下さい。



やしろファミリークリニック



院長 平田 善章 先生

住 所：福井市湊2丁目903番地
 T E L：0776(33)5533
 診 療 科：小児科、内科、アレルギー科
 診 療 時 間：8:40~12:00/15:00~17:50
 予 約 外 来：14:00~15:00(予防接種・健診等)
 休 診 日：木・土曜午後、日曜、祝日
 U R L：<https://yashirofamilyclini.wixsite.com/home>



患者さんの声に耳を傾ける

当院はつらい時、誰かに話を聞いてほしい時に皆さんの近くで声をかけられる、そんな場所を目指しています。また赤ちゃんからお年寄りまでに親しまれ、地域に根差した医療を提供していきます。これまでに私が勤務してきた診療所や医院での勤務経験を活かし幅広い世代の患者様の要望に対応した診療を行っております。

当院では感染症対策に特に気を配っています。感染症待合室や逆隔離用に予防接種・健診待合室も設けています。また、診療時間でも乳幼児健診や予防接種のための予約診療の時間を設けることで、空間的・時間的な配慮をして院内での感染対策をとるようにいたしました。

またもう一つ注力していますのは、喘息やアトピー性皮膚炎に対するアレルギー診療です。食物アレルギーの患者様のご相談もさせていただき、エピペンの処方も行っております。当院では必要最小限の検査、食事制限を心がけて診療しています。また、スギ・ダニアレルギーの舌下免疫療法にも積極的に取り組んでおりますので、興味のある方は気軽にご相談いただけると幸いです。

福井県立病院 陽子線がん治療センター

陽子線がん治療センター 利用者1,000人に！

平成23年3月に開設しました福井県立病院陽子線がん治療センターでは、平成30年2月に利用者数が1,000人に達しました。

当センターは、全国で9番目に開設した粒子線(陽子線・重粒子線)治療施設で、外来での治療に加えて入院を必要とする治療も行ってきました。

患者さんの居住する地域別で見ますと、北陸3県では福井県51%、石川県12%、富山県7%となっています。

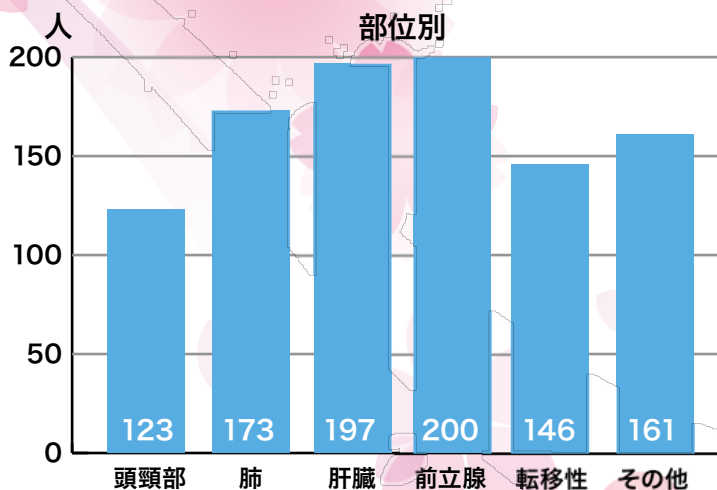
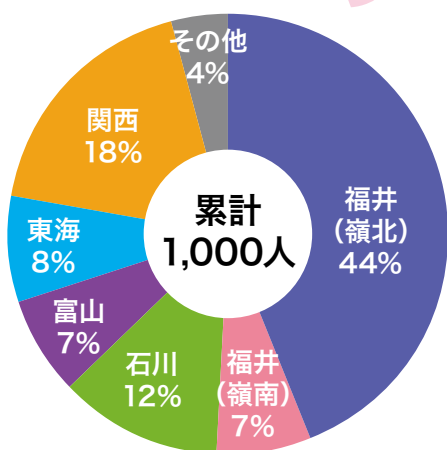
また、部位別では、前立腺20%、肝臓20%、肺17%、頭頸部12%、転移性15%となっており、その他、食道や膵臓の治療も行っております。

男女比では、男性72%、女性28%となっており、男性の治療患者さんが多い状態です。これは男性のみが罹患する前立腺がんの患者さんが多いためです。また、患者さんの65%が60代、70代の方で平均年齢67.8歳でした。副作用が少なく体にやさしい治療であるため利用者の方の中には、働きながら治療された方も多くいらっしゃいます。

平成30年4月からは陽子線治療の公的医療保険の適用が拡大され、これまでの小児がんに加え、前立腺、頭頸部悪性腫瘍の一部、骨軟部腫瘍が公的医療保険の適用となります。これにより、患者さんの経済的な負担は大きく軽減されることとなります。

今後もこれまでと変わらず、患者さんを一番に考えた陽子線治療をスタッフ一丸となって実施していきたいと考えています。

陽子線治療に関するご相談は随時、承っておりますので、相談窓口までお問い合わせください。
(相談専用ダイヤル:0776-57-2981)



福井県立病院 地域医療連携推進室

FAX/(0776)57-2901 ※ TEL/(0776)57-2900

【月～金 8時30分～18時 (祝日および年末年始)
土 8時30分～12時30分 (12月29日～1月3日を除く)】

※上記のFAXについては、月～土の時間外、日曜日および祝日は、救命救急センターに切り替わります。＜土曜日は紹介患者受付のみで、外来診療は従来どおり休みです。＞

緊急の場合は救命救急センターへお願いします。

救命救急センター

TEL/(0776)57-2990

FAX/(0776)57-2991



健康長寿の福井



新聞やテレビで、県の情報をキャッチ！

新聞 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)

テレビ番組 「おはようふくいセブン」(FBC/日曜)

// 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)

// 「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)

広報誌 「県政広報ふくい」(年12回発行)

※ラジオやインターネットでも提供中。

問合せ先：県広報課 TEL/0776-20-0220